

暮らしと技を結ぶ住まい

—受け継がれる和傘—



A22AB125 松本結衣

1 伝統的工芸品

伝統的工芸品とは、指定された5つの要項をすべて満たし、経済産業大臣の指定を受けた工芸品のことである。

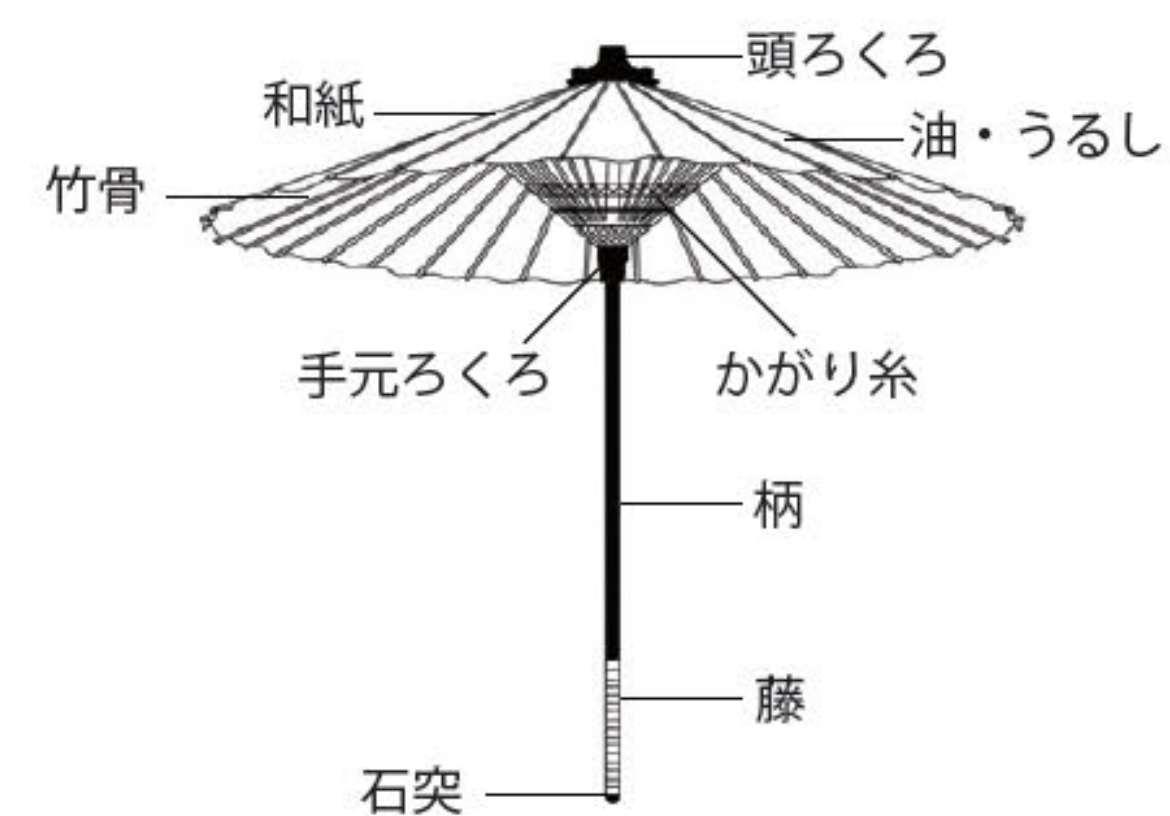
伝統的工芸品産業は、長期的に減少傾向にあり、生産額や従業員数の減少が続いている。こうした状況の中で、需要の縮小と後継者不足が同時に進行しており、技術の継承と価値発信のための新たな仕組みづくりが求められている。

2 岐阜和傘

岐阜和傘は、岐阜県を代表とする伝統的工芸品の1つであり、経済産業大臣により伝統的工芸品として指定されている。

畳むと細く美しく収まる「細物」を特徴とし、開いた姿だけでなく閉じた佇まいにも、美しさが現れる。

雨傘や日傘、舞踊傘など、暮らしや文化の中で多様に用いられている。



3 岐阜和傘の課題

後継者不足

- ・職人の高齢化
- ・多数の工程があり分業制のためすべてを習得するのに時間がかかる
- ・安定した収入を得るのが難しい



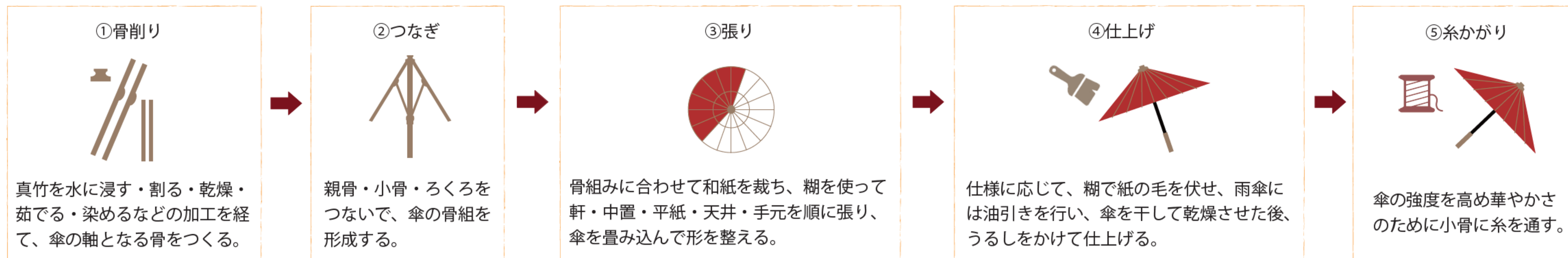
交流・発信力不足

- ・職人同士の交流が少ない
- ・岐阜和傘を知る機会が少ない
- ・和傘の価値（高い技術力、歴史）が伝わっていない



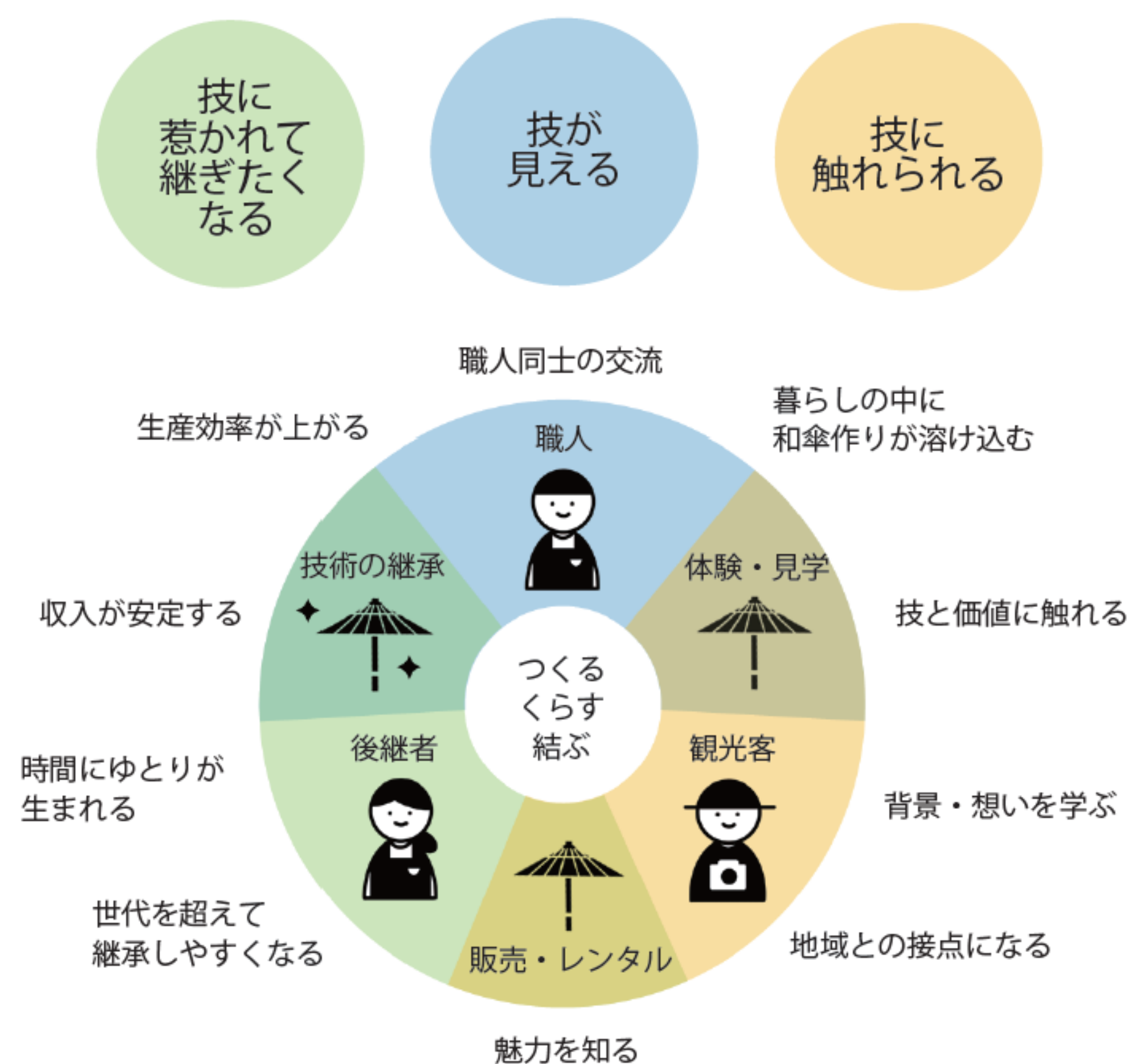
4 岐阜和傘ができるまで

骨削りから糸かがりまで、約100近くの工程を職人が分業し、数か月をかけて1本の和傘を作り上げる。



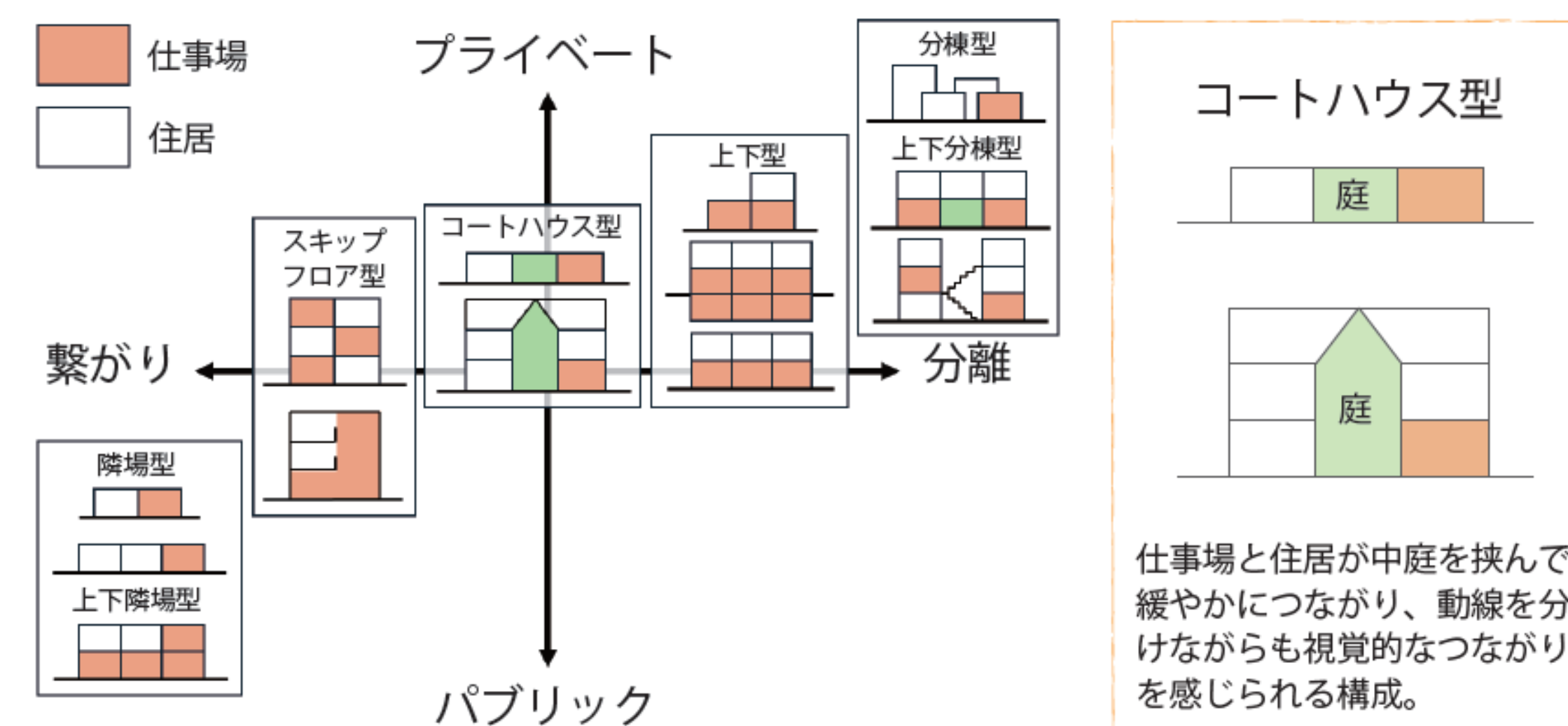
5 設計コンセプト

職人の「暮らしながらつくる姿」が発信力を持ち、岐阜和傘を未来につなげる。職人・後継者・地域の人や観光客が日常的につながり、和傘作りが暮らしの中に溶け込む。体験や見学を通して、「技が見える」、「技に触れられる」、「技に惹かれて継ぎたい」環境を生み出し、岐阜和傘が未来に受け継がれていく。

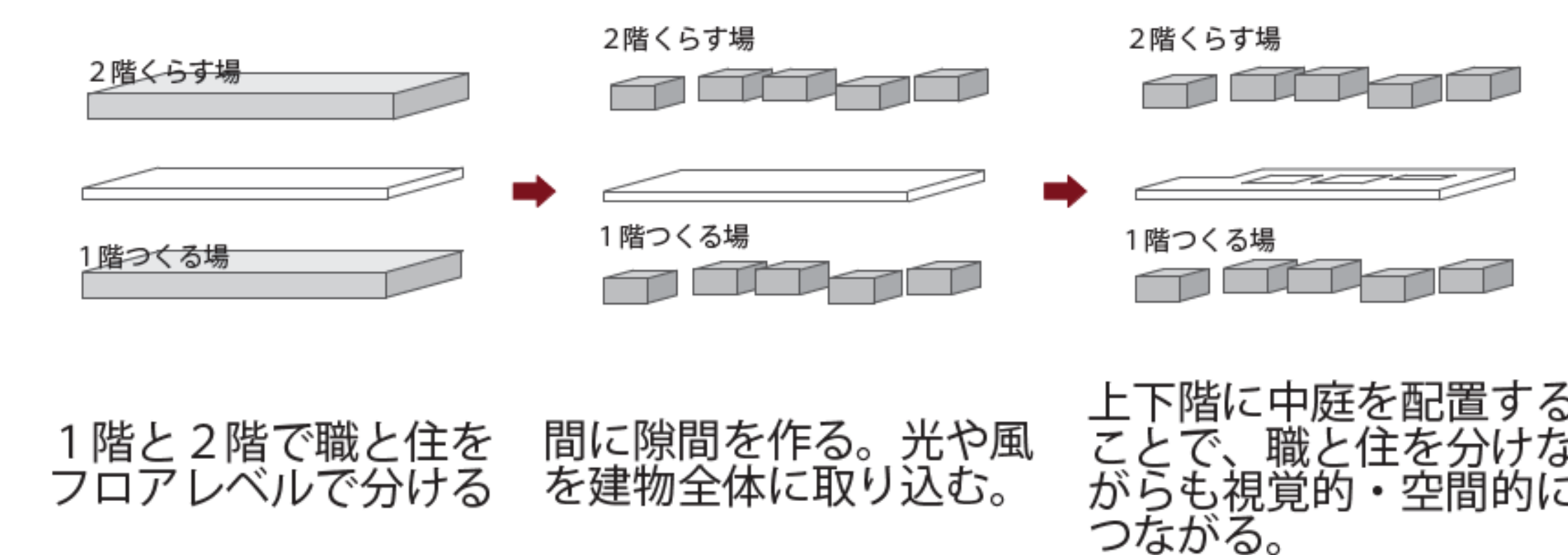


6 職住一体の空間構成

事例・既往研究から職住一体の空間構成を分析し、仕事場と住居の距離や関係性に着目して、5つのタイプに整理した。その中で、住居と仕事場のバランスが最も良く成立すると考えられる「コートハウス型」を、本計画の基本構成とする。



7 空間の成り立ち



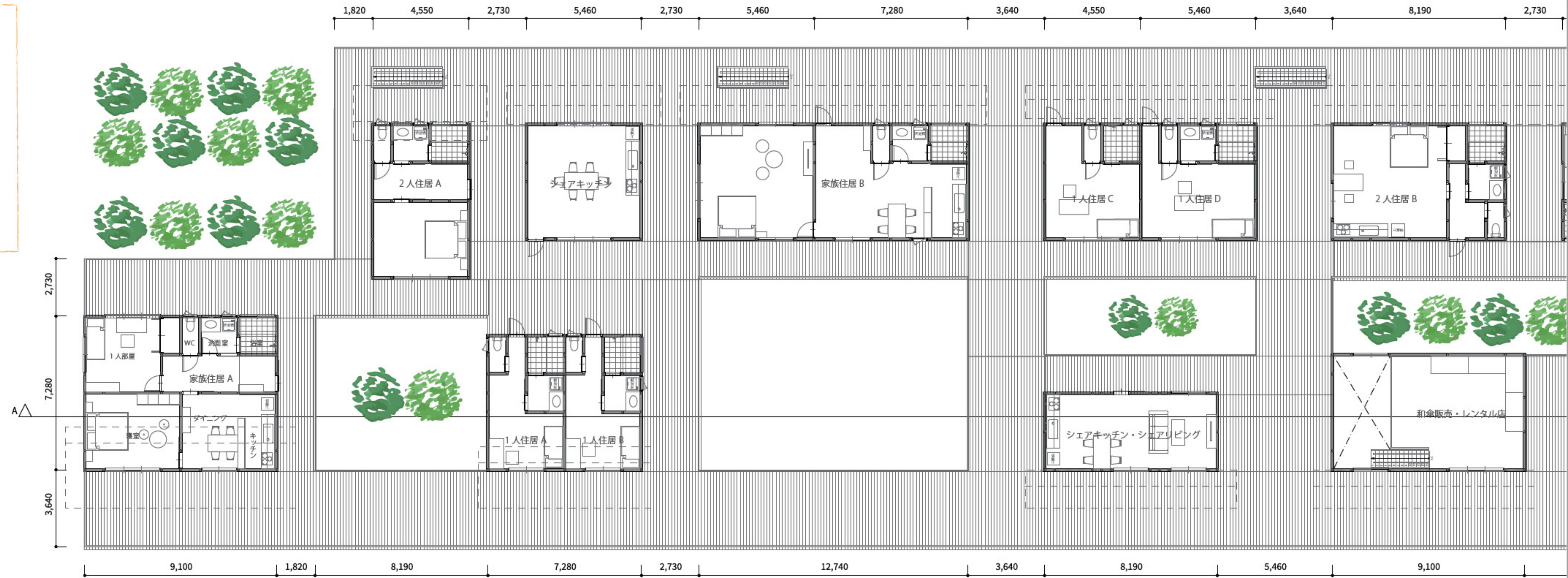
8 対象敷地

敷地は、岐阜和傘の起源の地である岐阜県岐阜市加納地区、岐阜駅近くの公園に面した場所とする。現在、加納地区には岐阜和傘を生産する場所が少なく、産地としての姿が見えにくくなっている。そこで、歴史的背景を持つ加納地区に制作の場を設け、和傘文化を現代に引き継ぐことを目指す。岐阜駅から徒歩圏内という立地は、地域住民や観光客が訪れやすい。また、中山道や城下町などの歴史的な町並みが近く、和傘をレンタルして周辺を巡るといった観光の展開も可能である。



2階「くらす」場

- ・家族住居 A、B
- ・2人住居 A、B
- ・1人住居 A、B
- ・1人住居 C、D
- ・1人住居 E
- ・シェアキッチン・リビング
- ・シェアリビング



2階平面

1階「つくる」場

竹の栽培



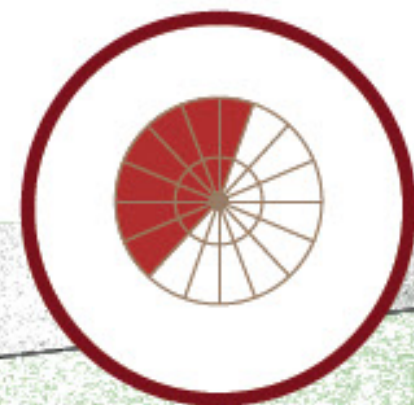
①骨削り



②つなぎ



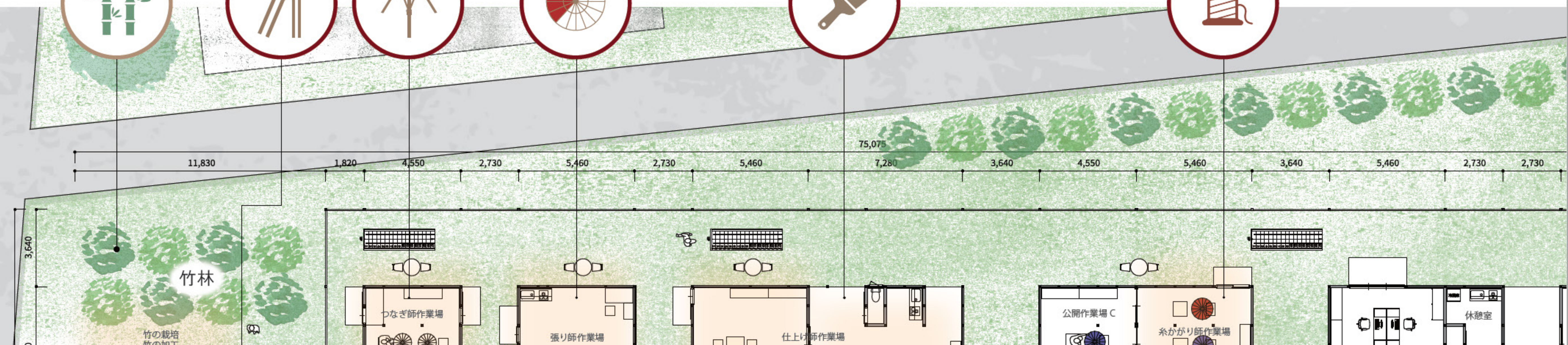
③張り

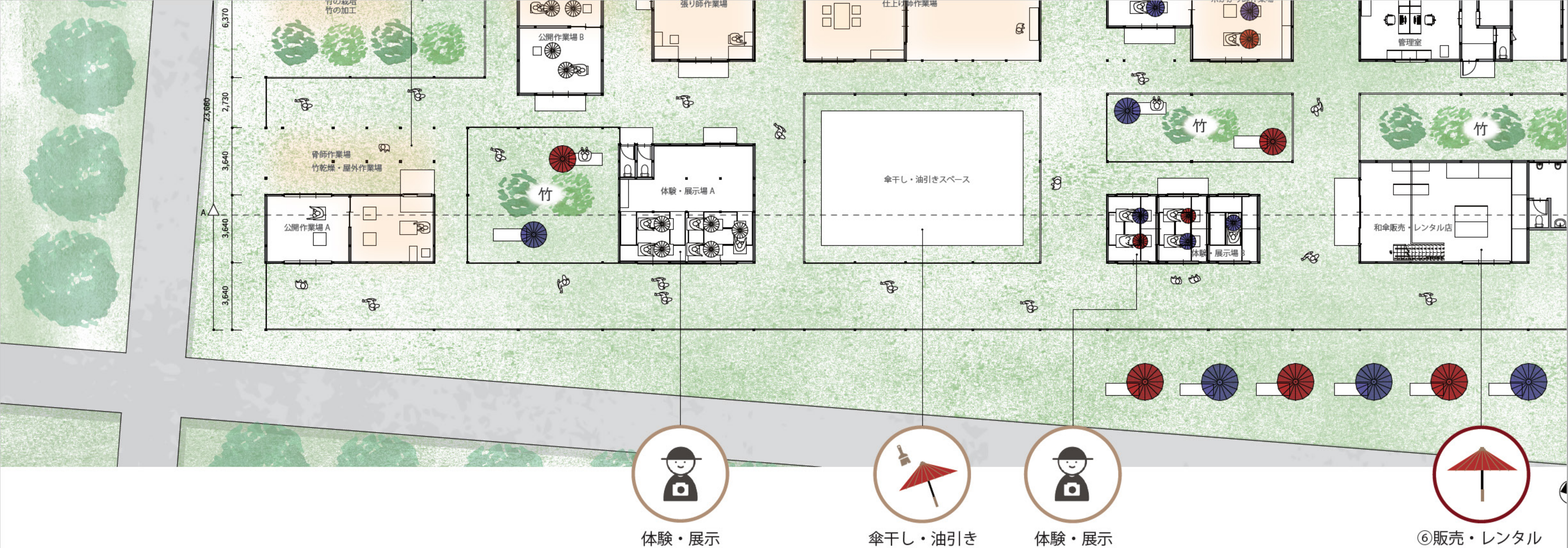


④仕上げ



⑤糸かがり





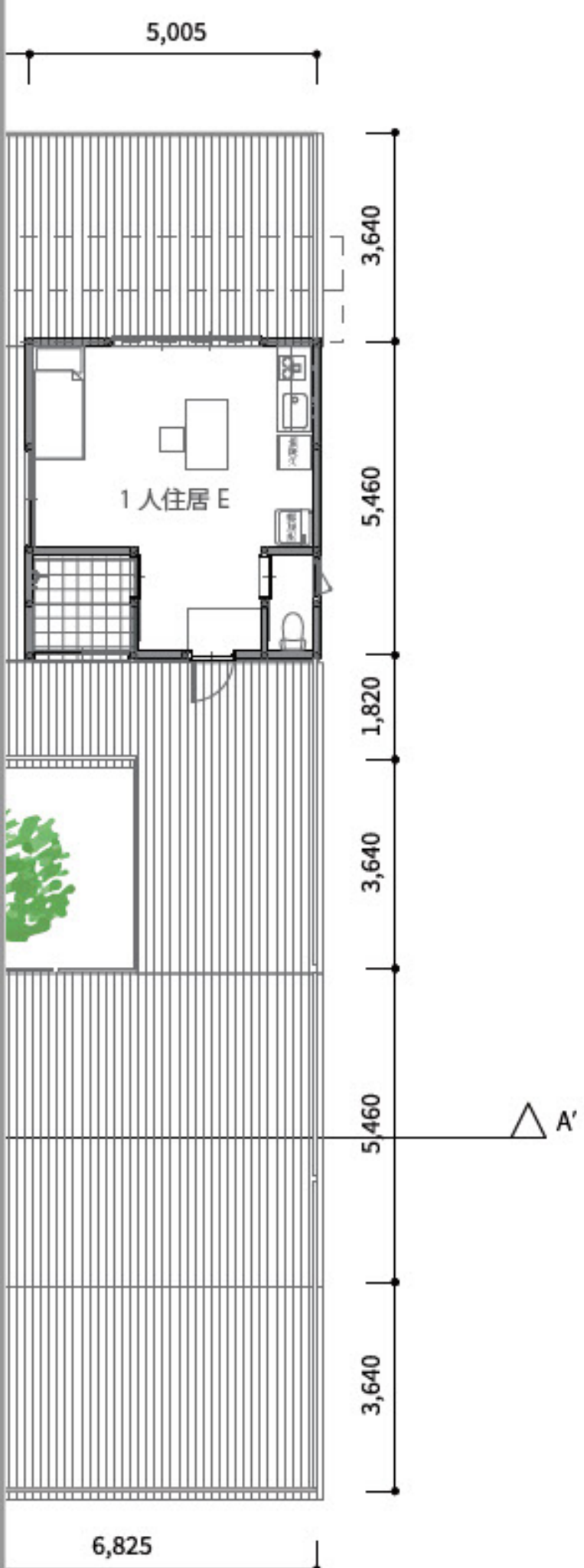
A-A

北

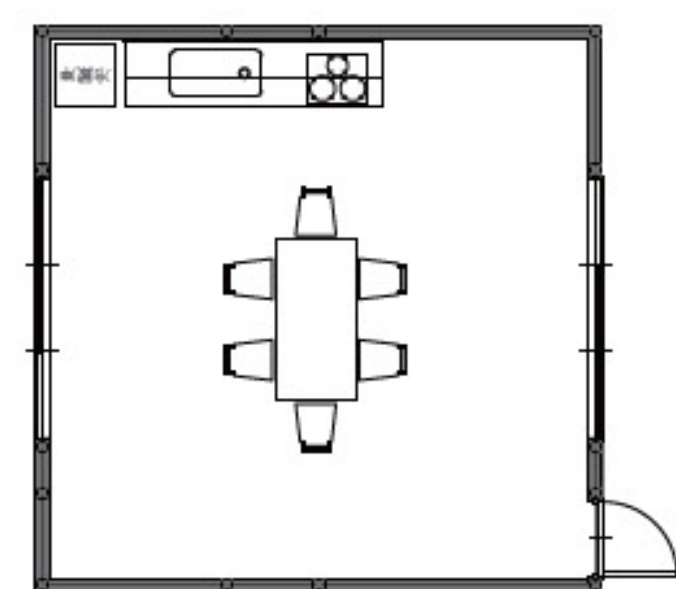
▲ 寄り添う住まい

家族住居・2人住居・1人住居を段階的に設け、単身の職人や見習いが生活段階に応じて選べる構成。

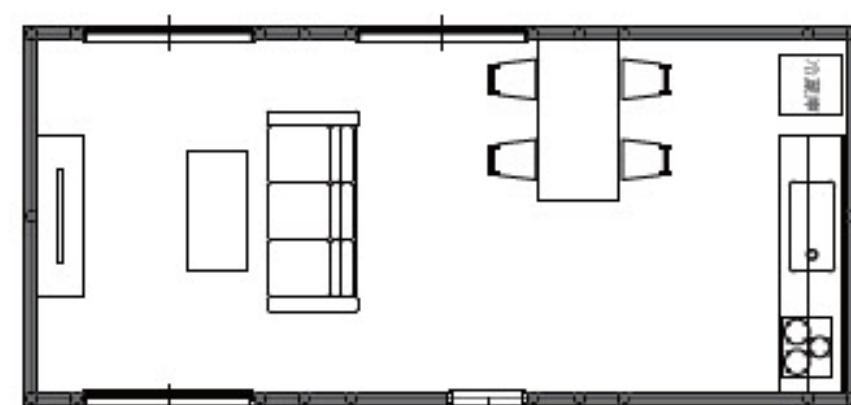
さらに、シェアキッチンやシェアリビングを通して、個人の生活を守りながら緩やかなコミュニティを形成する。



面図 1:100

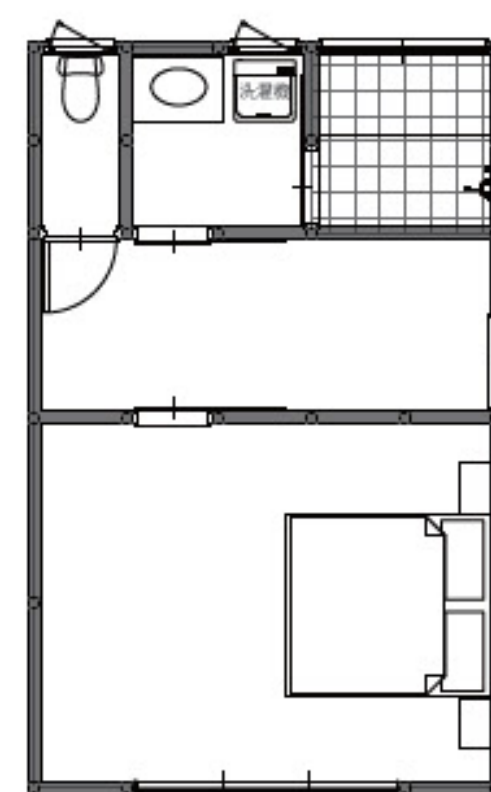


シェアキッチン

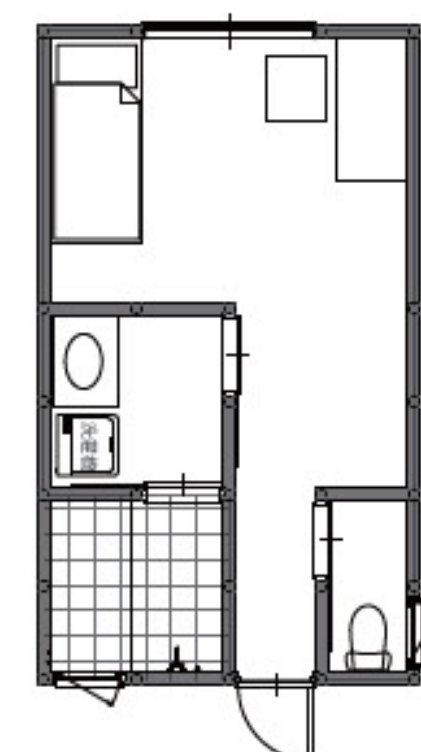


シェアキッチン・シェアリビング

共用生活型

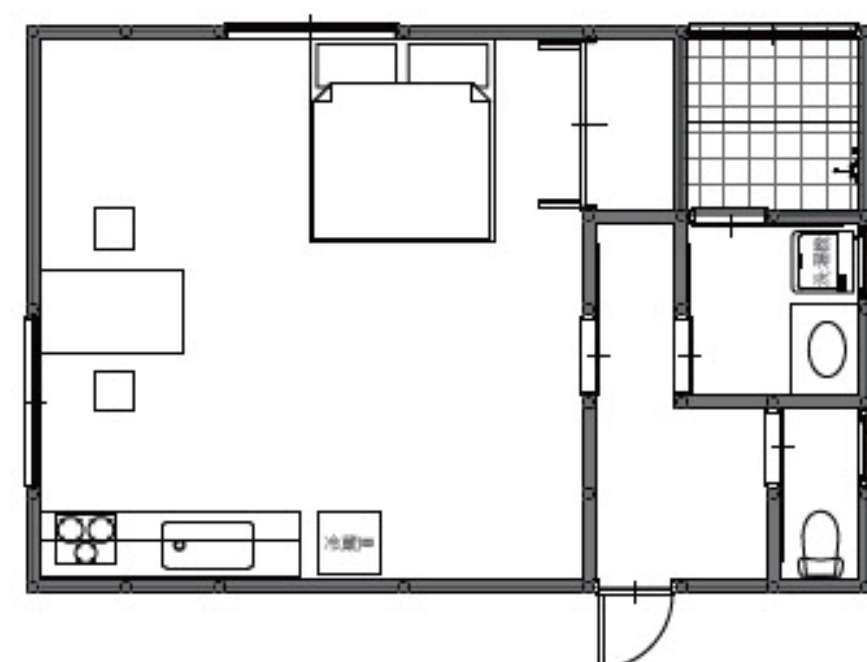


2人住居 A

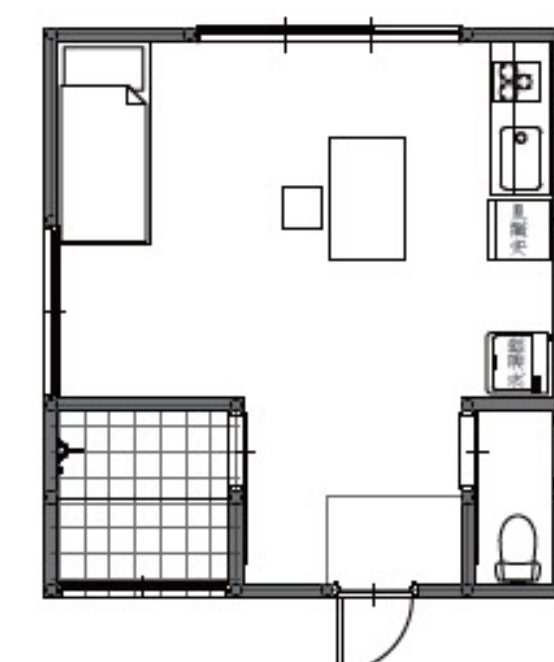


1人住居 A・B
1人住居 C・D

寝室と水回りを中心とした簡易型

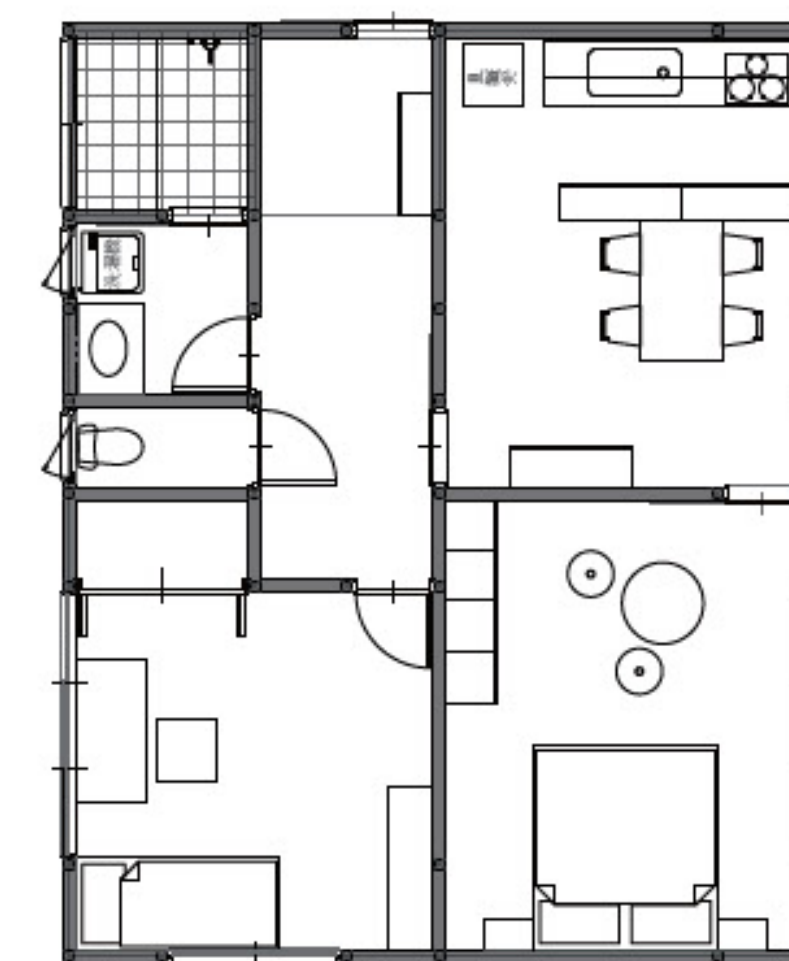


2人住居 B

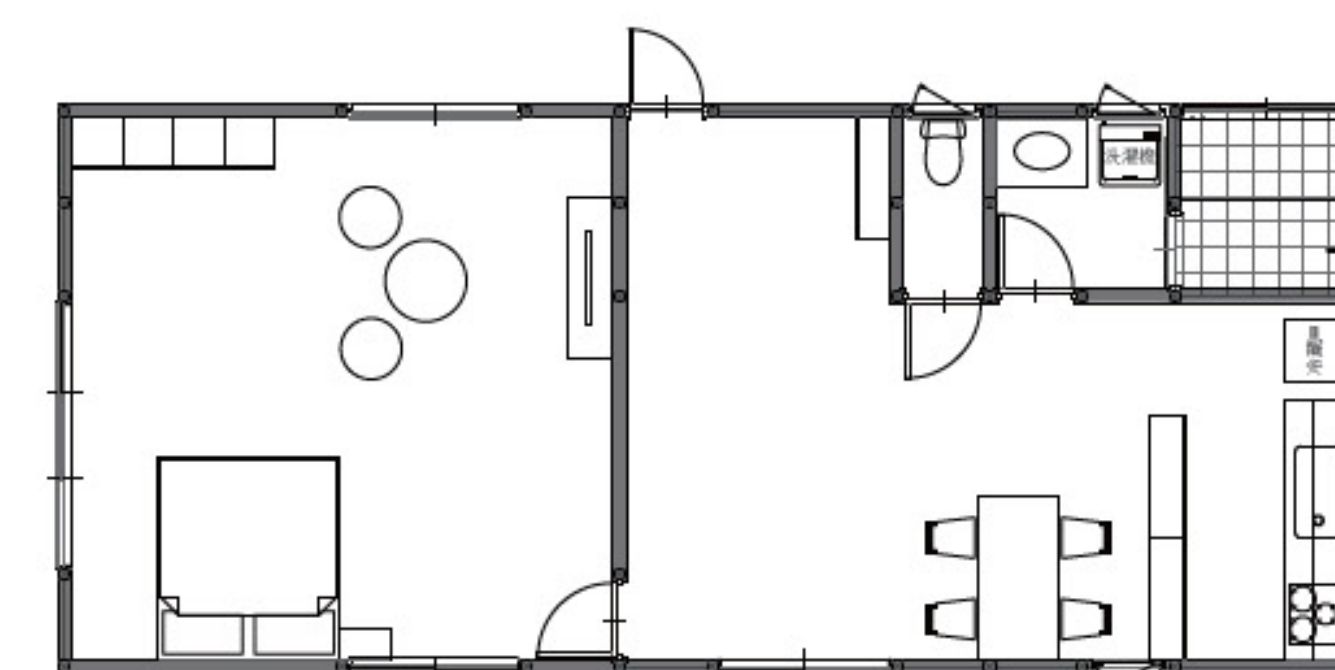


1人住居 E

生活機能一体化型

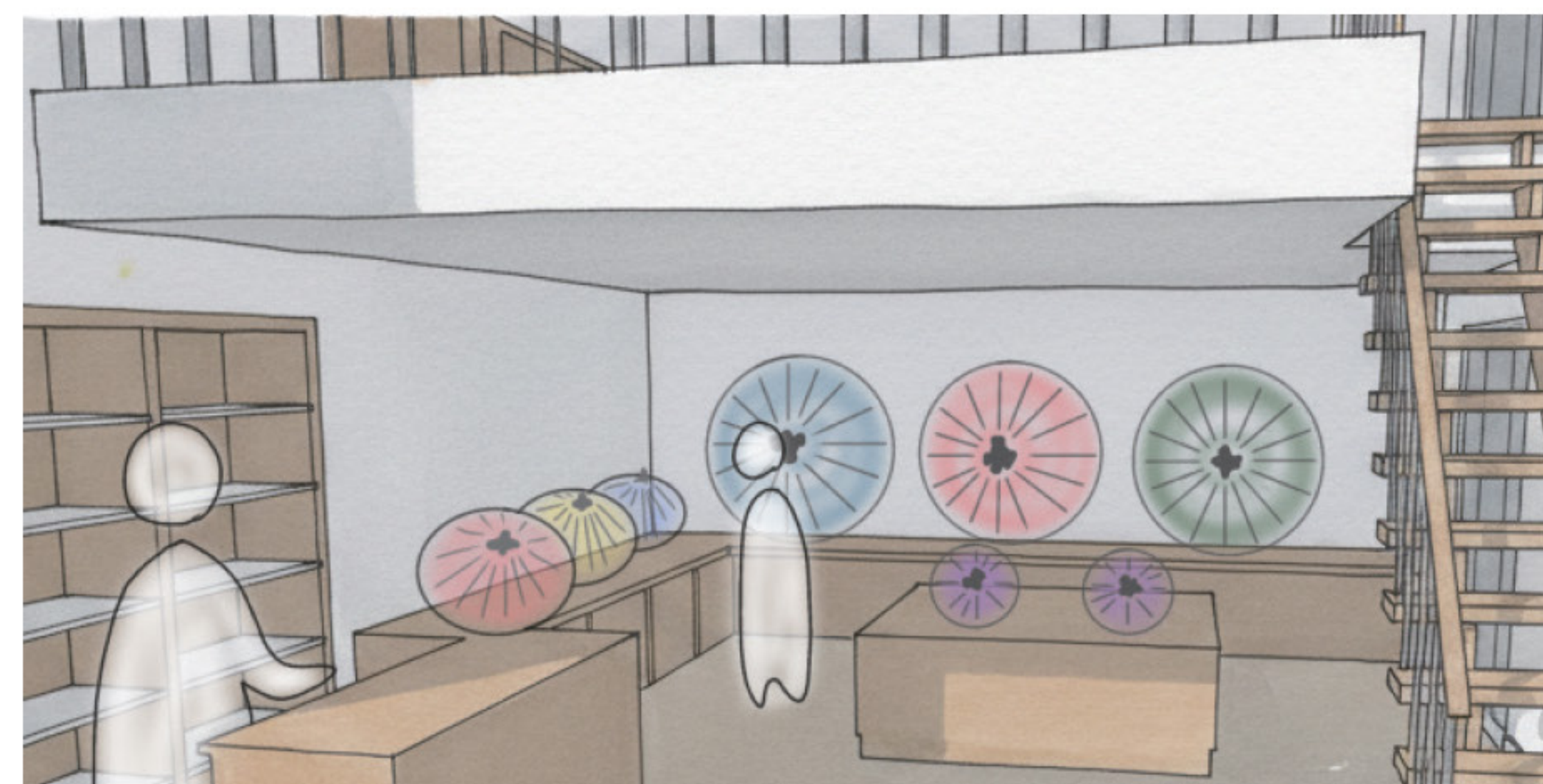
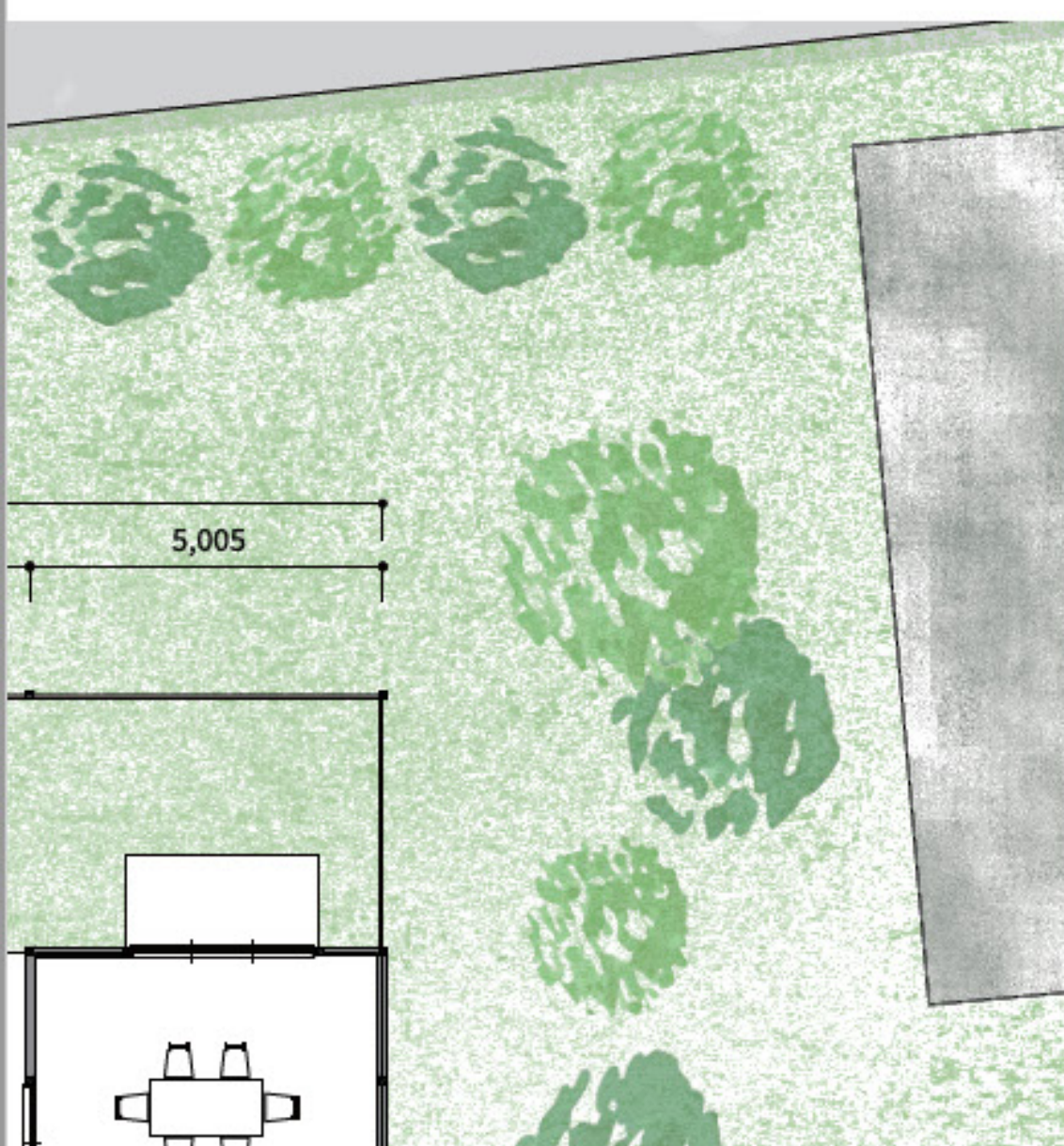


家族住居 A



家族住居 B

生活機能を分離した独立型





1階配置図兼平面図 1:100



A' 断面図 1:100

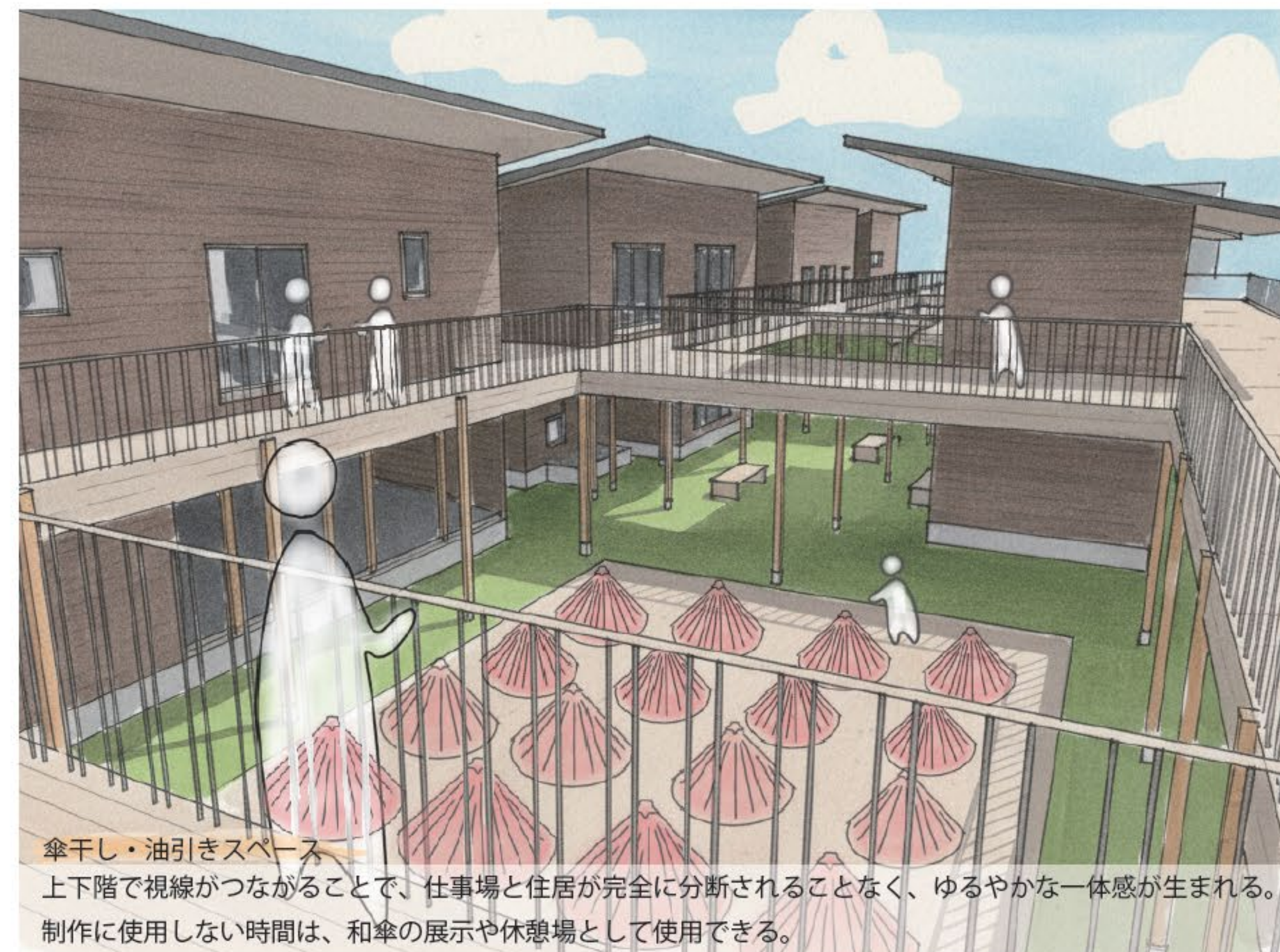


北側立面図 1:100



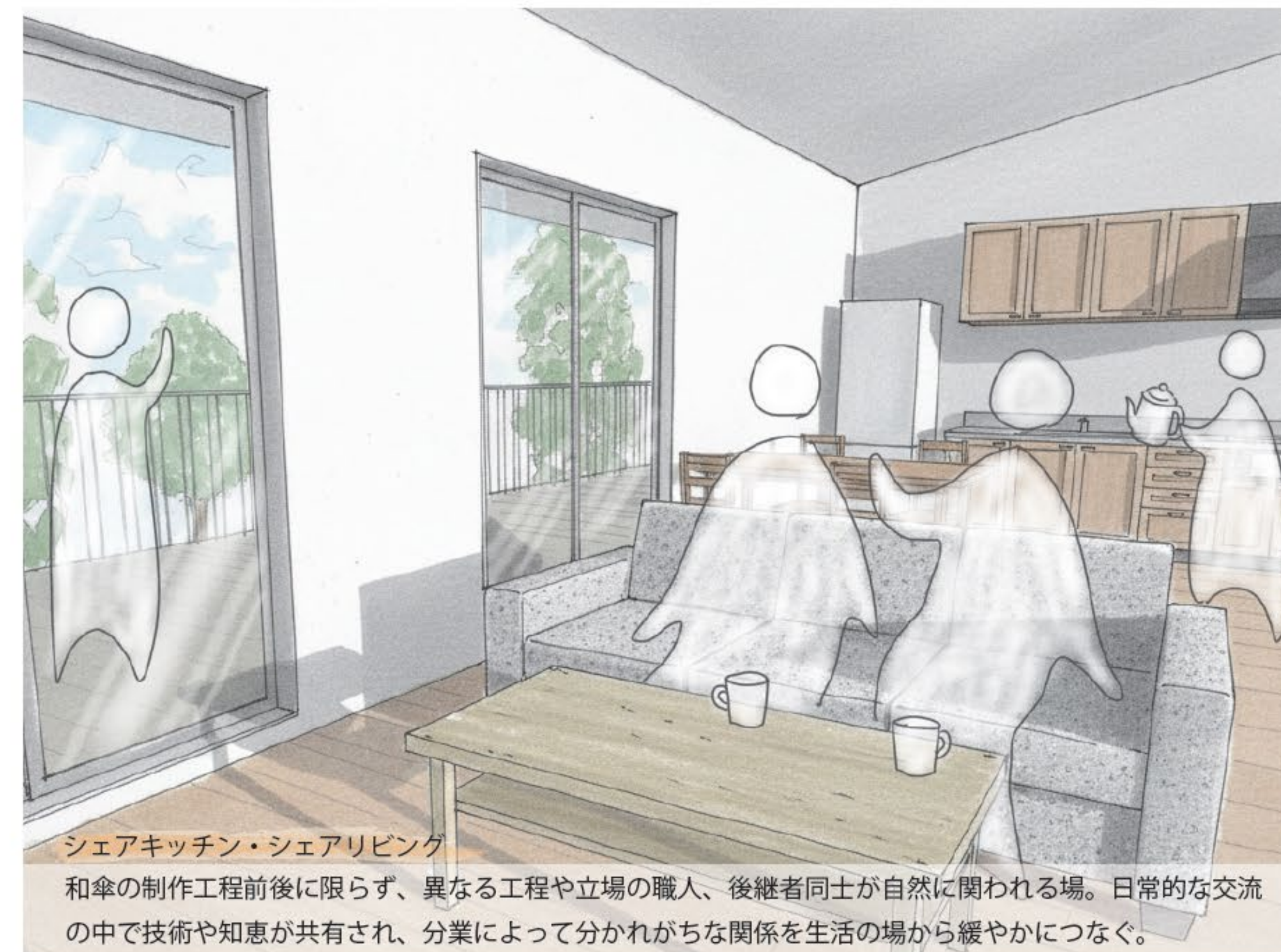
竹林・骨師作業場

制作工程に沿った作業場配置により、職人の効率的な制作と、観光客が自然な流れで工程を理解できる構成。和傘の骨となる竹を育てることで、素材から制作までを一体的に感じることができる。



傘干し・油引きスペース

上下階で視線がつながることで、仕事場と住居が完全に分断されることなく、ゆるやかな一体感が生まれる。制作に使用しない時間は、和傘の展示や休憩場として使用できる。



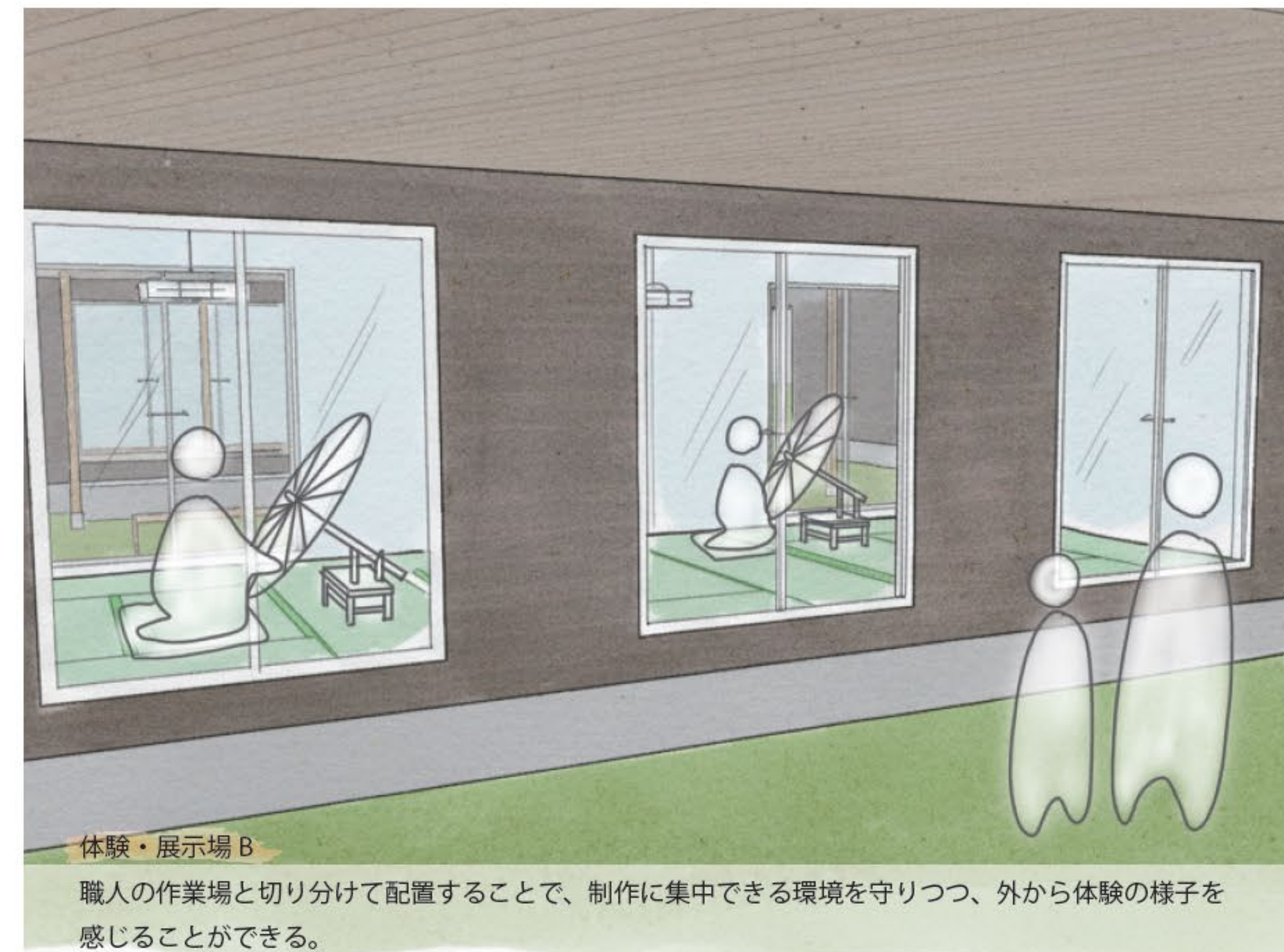
シェアキッチン・シェアリビング

和傘の制作工程前後に限らず、異なる工程や立場の職人、後継者同士が自然に関われる場。日常的な交流の中で技術や知恵が共有され、分業によって分かれがちな関係を生活の場から緩やかにつなぐ。



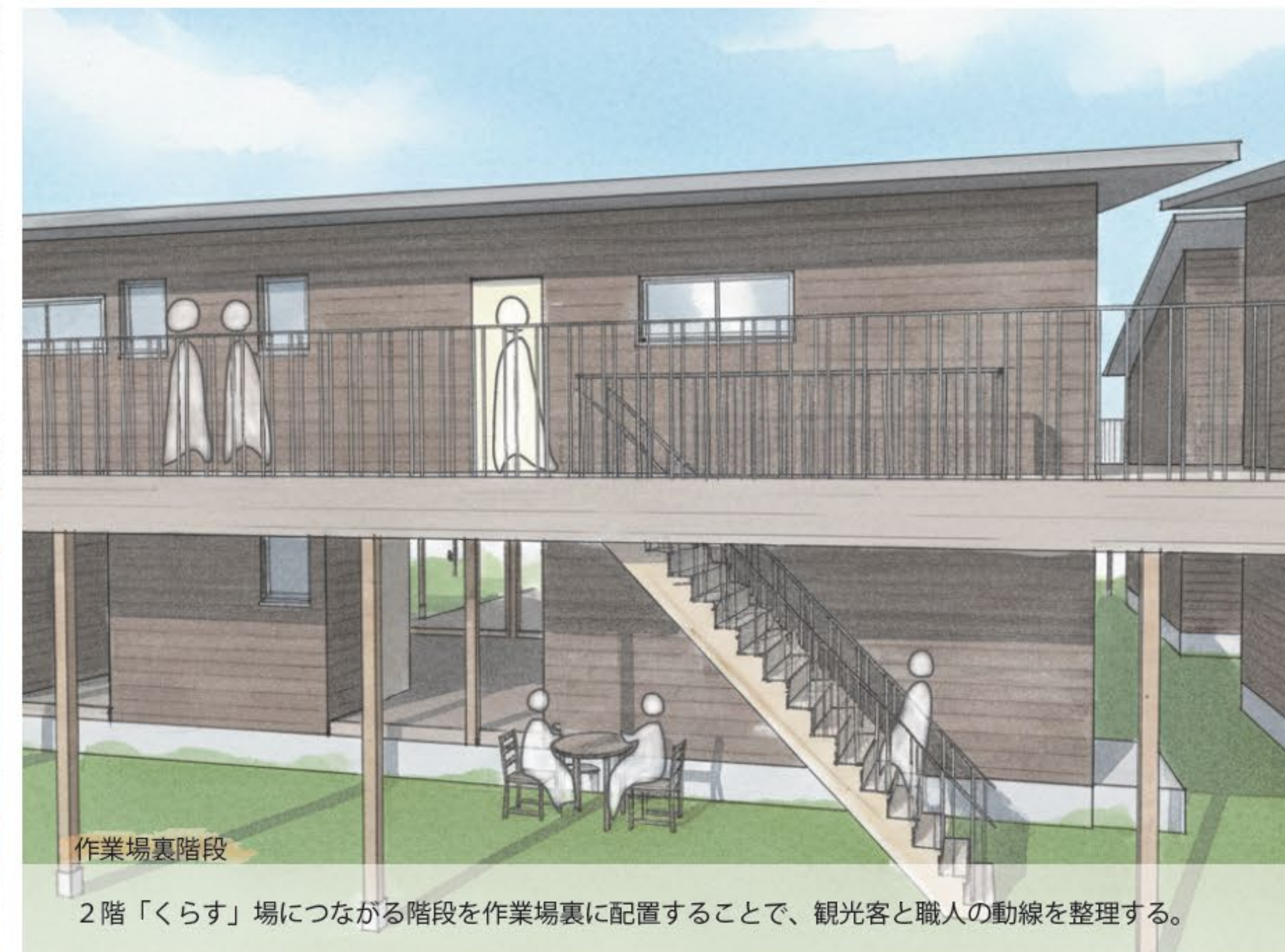
和傘・レンタル店

その場で制作された岐阜和傘を販売・レンタルする。職人と購入者が交流しながら直接つながることで、職人のやりがいや制作を続ける意欲につながる。



体験・展示場 B

職人の作業場と切り分けて配置することで、制作に集中できる環境を守りつつ、外から体験の様子を感じることができる。



作業場裏階段

2階「くらす」場につながる階段を作業場裏に配置することで、観光客と職人の動線を整理する。